

阪神・淡路大震災 30 年

災害メモリアルアクションKOBÉ

ACTION 2025

伝える大震災、つながる防災

KOBÉのことば

参加無料

当日先着順
(事前申込不要)

活動報告会

日時

2025.1.11 SAT
10:00 → 16:15

会場

阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所

共催：京都大学防災研究所 自然災害研究協議会近畿地区部会

企画：災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会

後援：兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞神戸総局/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞神戸総局/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部/兵庫県立舞子高等学校/兵庫県立大学/兵庫県立尼崎小田高等学校

これまで私たちは「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアル・コンファレンス・イン神戸」、そしてその教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアルKOBÉ」を実践してきました。

2016年からの10年は当時大人だった世代が少なくなるさらに次の10年を見据えて、今後使える方法やしぐみを試行錯誤し、発見し、つくる10年とし、「KOBÉのことば」をキーワードに「災害メモリアルアクションKOBÉ」という取り組みを行ってきました。

「KOBÉ」とは、阪神・淡路大震災の被災地域全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。

阪神・淡路大震災から30年、大震災を直接経験していない若い世代の人たちが、災害を経験した人々へのインタビュー、アンケート、交流事業などの活動を通じて、次世代に伝えるべき「KOBÉのことば」を紡ぎ、活かし、拡げます。「過去・いま・未来」を見据え、世代を超えて活動する、最先端のアクションです。

第 1 部：災害メモリアルアクション KOB E2025 活動報告会

※敬称略

10:00 開会挨拶

災害メモリアルアクションKOB E 企画委員会委員長 京都大学防災研究所 教授 牧 紀男

10:05 活動発表

発表 ① 兵庫県立舞子高等学校
② 滋賀県立彦根東高等学校
③ 兵庫県立尼崎小田高等学校
④ TEAM-3A
⑤ 国立明石工業高等専門学校D-PRO135°(明石高専防災団)開発チーム
⑥ 国立明石工業高等専門学校D-PRO135°(明石高専防災団)地域連携チーム
⑦ 神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ
⑧ 神戸学院大学 クローズアップ社会研究会
⑨ 関西大学 社会安全学部 奥村研究室
⑩ 兵庫県立大学 学生災害復興支援団体LAN

12:05 パネルディスカッション
「伝える」ことから生み出した「新芽」～聴く、創る、報せるという観点から～

災害メモリアルアクションKOB Eの10年の活動では震災21・30年という超長期の震災経験の継承・語り継ぎのあり方について考えてきました。活動の中から様々な新しい試み(「新芽」)が生まれてきました。最後の数年間考えてきた、聴く・創る・報せるという観点から、災害が頻発し、南海トラフ地震の発生が懸念される中で、災害の経験を「伝える」こと、さらに被害を減らすための対策へとつなげる方法について参加団体の学生とともに考えたいと思います。

コーディネーター
京都大学防災研究所 教授 牧 紀男
人と防災未来センター研究部 研究員 餅原 秀希
パネリスト
兵庫県立舞子高等学校／滋賀県立彦根東高等学校／TEAM-3A
国立明石工業高等専門学校D-PRO135°(明石高専防災団)
神戸学院大学 クローズアップ社会研究会 以上5団体代表
グラフィックファシリテーター
大阪防災プロジェクト共同代表 多田 裕亮／山越 香恋

12:55 講評・閉会挨拶

災害メモリアルアクションKOB E 企画委員会顧問 人と防災未来センター長 河田 恵昭

13:00 昼休憩

第 2 部：災害メモリアルアクション KOB E 阪神・淡路大震災 30 年 特別企画

14:00 震災30年スペシャル座談会 ～臼井先生、その生徒、その生徒の生徒～

神戸親和大学 准教授 臼井 真 兵庫県立舞子高等学校教員、生徒

14:30 記念ミニコンサート (「しあわせ運べるように」ほか)

指揮：神戸親和大学 准教授 臼井 真 演奏：長田区合唱団

14:45 特別シンポジウム 「これまでの30年とこれから～“アクション”の次は?～」

阪神・淡路大震災を経験した世代による「メモリアル・コンファレンス・イン神戸」(～2005年)、その教訓を次世代に伝えるための「災害メモリアルKOB E」(～2015年)からバトンを引き継いだ「災害メモリアルアクションKOB E」(2016年～)。その位置づけや意義を共有するとともに、この10年で参加した若い世代の変化やプロジェクトの成果、さらにこの先の10年を見据えた、「アクション」の次のキーワードは何なのか?語り合います。

コーディネーター
NHK大阪放送局チーフ・アナウンサー 大山 武人
パネリスト
人と防災未来センター長 河田 恵昭
京都大学防災研究所 教授 矢守 克也
京都大学防災研究所 教授 牧 紀男
災害メモリアルアクションKOB E企画委員会 委員
グラフィックファシリテーター
大阪防災プロジェクト共同代表 多田 裕亮／山越 香恋

活動発表

兵庫県立舞子高等学校



今年度は、先生方への被災体験インタビューや、防災読本の配布・紙面改良、避難所運営マニュアルの作成に取り組みました。被災者・未災者問わず、皆さんの思いに真摯に向き合い、私たちが得た気づきをできるだけ多くの人へ広めていけるよう、頑張ります。

滋賀県立彦根東高等学校 新聞部



「福島をつなぐ」と題し東日本大震災復興支援の連載をはじめて13年になります。本年度は能登半島地震にスポットを当て災害復興特集号を作成しました。石川県金沢市を中心に現地取材を行って復興の課題について考えたり、現地高校生との交流等を行いました。

兵庫県立尼崎小田高等学校



災害が発生した時に学校が「HUB」となり、地域コミュニティが協力でき、「助けて」と言える関係を、平素から構築していくための取り組みをはじめて9年。災害時要配慮者の支援に高校生ができること、防災・減災文化を地域社会に根付かせる取り組みを報告します。

TEAM-3A チーム トリプルエース



TEAM-3Aは2022年5月にスタートして今年度が3年目。現在は現役高校生と卒業生の学生・社会人、さらに今年度から中学生も参加した幅広い年代のユースチームとして「いつでも・どこでも・だれでも楽しくぼうさい」をテーマに活動を展開しています。

国立明石工業高等専門学校
D-PRO135°(明石高専防災団)



開発チーム
D-PRO135°開発チームは、昨年度より制作を進めてきた「災害版人狼ゲーム どうでい」および未就学児を対象とした避難バッグ「つめつめ」の開発・展開に取り組んでいます。今後は、継続的なプレイと実際の教育効果に焦点を当てて活動していきます。



地域連携チーム
D-PRO135°地域連携チームは、前年までの経験をもとに新たな挑戦として、幼稚園児を対象とした防災講義や、働く世代に向けた活動など、日々防災の広め方を模索しています。防災寺子屋といった小中学校への出前講義のような新たな活動を作ります。

神戸学院大学 現代社会学部



安富ゼミ
ゼミでは地震や水害の被災地を訪れ、実際に現場を見て災害情報や復興について考えることをモットーにしており、今年度は1月1日に震度7の大地震に見舞われた能登半島を2度訪れ、ボランティア活動を実施。初期対応などの危機管理、復旧・復興について考えた。



クローズアップ社会研究会
私たちは、身の回りで起こっている社会・時事問題について研究をしています。今回は「選挙と防災」を研究テーマとし、学生や教授に調査を行うことで、候補者視点・投票者視点のギャップについて研究していきます!研究したことは、これから新聞という形でまとめ、発行していきます!

関西大学 社会安全学部 奥村研究室



阪神・淡路大震災では、大きな精神的ストレスと劣悪な生活環境により命が失われることが、初めて「災害関連死」として広く社会に認知されました。私たちは、その後も繰り返される関連死の実態を分析し、当時の教訓がどのように生かされているのかを検証しています。

兵庫県立大学 学生災害復興支援団体LAN



兵庫県立大学学生災害復興支援団体LANは、東日本大震災を契機に結成され、被災地復興支援や防災活動などに取り組んできました。今年度は、福島や能登でボランティア活動や交流活動を行っています。

合唱



長田区合唱団



長田区合唱団では区民のみなさまに合唱を通じて元気を届けようと12年前に長田区役所職員が集まり、西市民病院でのロビーコンサートや身近な場所で歌っていました。今回は有志十数名で「しあわせ運べるように」と福島から生まれた合唱曲「群青」を披露します。

座談会・指揮
臼井真 (神戸親和大学准教授)



1960年、兵庫県神戸市生まれ。神戸市内の小学校で音楽専科教諭を務める。1995年、阪神・淡路大震災で東灘区の自宅が全壊。震災から約2週間後、「しあわせ運べるように」を作詞・作曲。独自の音楽指導で知られ、小学生のための自作のオリジナル曲を400曲以上作詞・作曲している。

「災害メモリアルアクションKOBÉ」は
阪神・淡路大震災のつらい経験を
二度と繰り返したくないという強い思いから、
学んだことを次に活かすことができる形をつないでいこうという取り組みです。

大震災から20年以上経った今だからこそ聞けることば。今しか聞けないことば。

その個々の経験を未来へどう活かせるか。
世代を超えて、共有し、話し合い、未来へつないでいく。
今のKOBÉだからこそできるアクションです。

近い将来起こりうる南海トラフ巨大地震を見据えて、
これから大震災を経験するかもしれないすべての人びとへ
防災の意識を継続させ、少しでも被害を小さくするために。

「未災者」が大震災を知り、さらに「未災者」に伝え、つないでいく、
新しいチャレンジです。

私たちはこれまでにないアクションにより、
継続的な取り組みの検証と検討の場を通して、
将来の被災者を減らします。

伝える大震災、つなげる防災



お問い合わせ

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター事業部普及課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2 西館6階
Tel : 078-262-5066
Email : mirai-fukyuuka@dri.ne.jp
HP : <https://www.dri.ne.jp/pickup/memorial-action/>



阪神・淡路大震災30年
1995 1.17